

# 見樹院ニュース

0

TE

RA

浄土宗 見樹院

住職 大河内秀人

〒112-0002

東京都文京区小石川3-4-14

TEL 03 (3812) 3711

FAX 03 (3815) 7951

Eメール：[hit@juko-in.or.jp](mailto:hit@juko-in.or.jp)

<http://www.kenjuuin.com>

第44号 仏暦2548 (2005・平成17)年9月18日発行

## 秋季彼岸会法要

### 見樹会総会のご案内

今年も秋のお彼岸にあわせ、見樹会総会を下記の通り開催いたします。

建設基金の経過や旅行のことなど、多くの方のみなさまのご意見やご参加をいただきたく存じます。何卒ご参集くださいますようお願い申し上げます。

**9月23日 (金・秋分の日)**

**午前11時 彼岸会法要**

引き続き

**見樹会総会**

事業報告／決算報告／事業計画／予算

建設基金経過報告／その他

正午過ぎ終了

## 今日より良い明日をめざす

### 見樹院のこれからを考えるために

仏教が、キリスト教やイスラム教、ユダヤ教などと決定的に違うのは「神はいない」ということです。この場合の「神」とは、天地を創造し運命を支配するような、唯一絶対神を指します。

では、どこに真理があるかと言うと「縁起」です。一つの神の意志に支配されるのではなく、あらゆるもの全てが、他のすべてのものとながりを持っていて、原因となり結果となり、条件となり変数となつて、主体的に生かされ生かしていると考えます。

その「不可逆的」にうつろいゆく道理を認識し、各自が生来的に持つ「良くなりたい心」と人間として身につけた理性によって、正しく生きることを説きます。

その基本となる、お釈迦さまが最初に説いたとされる根本的な教えが「四諦(したい)」「苦・集・滅・道」です。問題を考えるとき、まず苦しみを正面から見据えるところから始まります。その問題で最も苦しんでいるところにスポットを当て、共感することが大事です。そうしたらその苦しみの原因

を、深い理性で合理的に見極めず。そこでは問題の全体像を構造的に捉えることが必要です(集)。次に、その苦しみが取り除かれた状態を明瞭にイメージします。どのような状態をめざすのか、明確なビジョンが求められます(滅)。その上で、正しく合理的な行動を積み上げていくのです(道)。

高齢者の問題にしろ、環境、人権、平和の問題なども、すべてこの四諦のアプローチを基本にすればいいのです。そして、様々な問題に関わりあうことで——じつは関わりがあつたことを気づかされつつ——私たちは世界を広げ、命を深めることができるのです。

宗教と言うと、何か立派な教えがあつて、信者はその教えや指導者の前にひれ伏し従うものだと思われがちです。しかし初めから教えや真理があつたのではなく、釈尊も法然上人も他の教祖たちも、時代の苦しみを受け止め、共に悩み、人間としてそれらを乗り越える生き方を示したのです。

#### ■過去と未来を結ぶお寺だからこそ

このようなことを基本に、私たちは問題を一つずつ解決し、社会をより良く変えていくことができます。それが「縁起」の教え

に適った生き方と言えます。

みなさんはご法事のとき、お墓をお参りになるとき、仏壇に手を合わせる時、ご先祖の願いを聞き、ご先祖に「今」を報告されると思います。そしてこの次に来る時、向き合うときまでの誓いや約束をされるかもしれません。ここでもう一つ思いを馳せていただきたいことは、いづれみなさん自身がお墓の中の人になったとき、おまいりに来てくれる人々のことです。その未来の人々とも私たちはつながっています。私たちが今どう生きるかで、彼らの有り様は変わるのです。

私が住職を兼務している江戸川区の寿光院では、そんな思いで、屋根の上に太陽光発電設備を設置しました。未来がより安心して豊かになることを願うからです。

## 日帰りバスツアーのご案内

見樹会主催の旅行はなかなか実施できず申し訳ありません。代わりに、住職が理事として参画する浄土宗豊島組教化分団の参拝ツアーをご案内申し上げます。

今年は十一月十八日(金)に、見樹院と法類関係に当たる銚子の浄国寺を訪ねます。朝七時半に集

そしてそれは、ただ付けければいいということではありません。よりの多くの人々とその願いを共にし、そういう仕組みがもつと広がって、地域や社会が豊かになりつつ継続発展していかねければ意味がありません。

ですから寿光院では、地域の人々やNGO(NPO)と連携しています。発電だけではなく、高齢者の住宅や子どもたちの育つ環境づくりなどにおいても、あるいは金融・投資という分野においても、NGOと一緒に取り組んで一つ一つの形にしています。

これからの日本と世界はますます厳しい時代を迎えると言われてます。だからこそ、私たち自身が責任を持って、「明日」を築く主役となっていかななくてはならないと思うのです。

鴨駅前集合し、貸し切りバスで浄国寺を参拝した後、犬吠埼などを巡ります。希望者は太平洋を眺望しながら温泉にも入れます。参加費は七千円。申し込みは見樹院に十月末までにご連絡下さい。

浄国寺は、一茶や芭蕉をはじめ多くの文人墨客が訪ねた名刹です。

## ■未来ビジョンをもって

いつも総代の方々とも知恵を絞っているのですが、実際のところ経営面から見ると、見樹院の未来は決して明るいとは言えません。かつては大給松平家の菩提寺として、関係檀信徒のお力で栄えた時代もありました。しかし時代の変化、人々の意識の変化、生活環境の変化は、小規模寺院を成り立たせることを困難にしました。

もともと社会全体にしても、この世の中は「勝ち組」と「負け組」に分かれ、持てる者と持たざる者の差は、国内的にも国際的にもますます拡大しています。それがいろいろな意味で不安を増大させています。

私はかねがね不思議に思っていたことがあります。これだけ生産性が上がれば、みんな困ることもないし働く時間もかなり少なくなつて豊かに生きられるはずですが、確かに便利になつて、様々な面で「手を抜く」ことはでき、あるいはたくさんのことがこなせるようになりました。それなのに、豊かさを実感できないのは、尽きることはない人間の欲望のせいだと考えていました。確かにそういう面はあるので、お施餓鬼などでもそれを訴えてきました。

しかし本当の原因は、私たち個々の欲望以上に、「お金を儲けた」という勢力に支配されたこの社会の仕組み(メカニズム)にあるということがわかりました。

それが解つたのは、有能で心豊かなNGOと出会い、一緒に取り組んできたからです。それらはお金儲けではなく、本質的に健康や安心や信頼などの幸福の条件を追求し、私たちに本当に必要なものを、自分たち自身の力で築いているからです。その人々は、エネルギーを過剰に浪費しない、自然を破壊しない、憎しみのもととなる差別や支配をしない、平和で豊かな社会のビジョンを持って、足元から積み上げています。

声高に叫ばれた「改革」も、「民営化」に対する賛成反対も、私たちが目指すべき未来の状態を明確にしています。また、ビジョンも見えず具体的な積み重ねもない絵に描いた「九条」もはや風前の灯火です。

そんな社会だからこそ、無量寿経に細かく示された私たちのビジョン(極楽浄土)に向けて、小さなことでも足元から築き上げていく、今日より良い明日を確信できる活動で、見樹院を盛り上げていきたいと思えます。